

平成 27 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産部門

中山間地における地域対策と農業対策の一体化～6次産業化で所得向上～

○氏名又は名称 農事組合法人 ファーム・おだ (代表 吉弘 昌昭)

○所在地 広島県東広島市

○出品財 経営 (水稲)

○受賞理由

・地域の概要

ファーム・おだが拠点を置く小田地区は、東広島市河内町内の北東部に位置し、標高は265mから300mの地域となっている。

小田川を中心に柵状に耕地が広がる盆地に13集落が形成されており、JR 駅、山陽自動車道 IC、広島空港の各所からの交通アクセスが30分以内にある。また、隣接する地区には工業団地が整備されており、交通手段と就業機会に恵まれた安定的兼業地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

13集落の農業の永続と地域活性化を活動目的とする同法人は、全国で問題となっている少子高齢化に伴う農業の担い手不足に対応するため、平成17年に設立された。同法人は、農地を守る兼業農家主体の組織形態をとりながら、次世代の担い手の受け皿組織として、役員の強いリーダーシップと先見性による積極的な経営戦略をもち、稲作を中心とした6次産業化・経営多角化の事業を展開している。

・受賞者の特色

(1) 自治組織と連携した集落法人の活動

集落活性化の仕組みは、地域づくり・集落営農の体制づくりを小さな役場機能を担う自治組織が行い、営農実働組織として小さな農協機能を担う集落法人「ファーム・おだ」が行っている。この体制により、地域対策と農業対策の連携がうまく機能し、住民が一体となった明るく住みやすい地区として全国的に注目されている。

(2) 農地集積や6次産業化の取組による農業所得向上の実現

法人設立前の1戸当たりの平均耕作面積は小規模だったが、現在では100haを超す経営規模となり、小規模個人経営とは比較にならない生産コストと農作物取扱量のスケールメリットが生まれ、構成員の収入は、大幅に増加した。

また、米粉パン工房「パン&米夢 (ぱんとまいむ)」を開設し、女性の力を活用した商品開発や販路拡大に取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

ファーム・おだは、全国の農業法人との情報共有や農政に対する提案活動にも積極的に参加しており、国や関係団体へ中山間地域の集落法人の実態を伝えながら、集落法人全体の底上げを図ろうと尽力している。